

第24回 【サロン・タマリバー】

平成20年2月19日(火) 参加人数 36

ここのサロンは、時々外部からいろんな人が見え、
場を盛り上げてくれます。

今回は、大学生の実習生3名と、染地地域センター
のボランティアコーナーを担当されている折原さんも
加わり、久しぶりのダーツに皆さん熱中しました。

ひなまつりをひかえ、折り紙グループでは
【お雛さま】を折りました。



タマリバーに参加して・・・大学生より感想をいただきました

【タマリバー】での実習では、地域の生活で重要なことを学ばせていただきました。

「福祉という特別な所でなく、ここは生活する場所だ」と参加されている方々がおっしゃっていました。

私も実際に実習をさせて頂き、とても温かく迎えられたことが印象深く心に残っています。それは、誰でも受け入れてくれて、参加者の一人ひとりが主役と sentirられる場所で、一人ひとりが**【タマリバー】**を支えているのだと実感できる場所だからではないでしょうか。

【タマリバー】の空間のような地域が本来の地域であるのではないかと感じました。

石戸谷 寛

【タマリバー】で感じた事は、皆さん一人ひとりの笑顔がとても明るく心から楽しんで活動なさっているということです。

現在、問題になっている少子高齢化に対して、誰かの力だけに頼るのではなく、まず自分達で出来る事は何か。この町をどのようにしたいのかという想いの元に、一人ひとりの住民の力を活かして活動されているあり方に、とても強い想いと力強さを感じました。

そして「**福祉だけでなく生活へ**」という全体の生活として考えるという事が「**地域**」なのだと学びました。

貴重な体験をさせて頂き、また実習生である自分達のネームまで用意して下さい、タマリバーの皆様のあたたかさにとっても感謝しています。

どうもありがとうございました。

田辺 朋



【タマリバー】が他のサロン活動を越えている点は、参加人数と活動内容にあると言えるだろう。

【タマリバー】には、1人だけ俯いてしまう方や、何かに縛られている方はおらず、来たいタイミングで来て、やりたい事をやる、笑いたいだけ笑い、創りたい物を創り、振舞いたい物を振舞う。そんな、どこか懐かしい昔の日本を思わせるような付き合い方がありました。

今では、それさえも鬱陶しいと言い、蔑み嫌う時代になってしまったけれど、本当にそんな寂しい世の中で生活したいですか？

私は御免被ります。**【タマリバー】**の空間には、そんな不安や寂しさ、孤独などはなく、在って当たり前だった人の優しさが余るほど溢れていました。

皆でお喋りをし、作って来た物を食べ合い、縫物などをする。その優しさをただ溢れさせてしまうものは勿体ないと思います。もっとここの素晴らしさを知って欲しい、直接肌で感じて欲しい、そう感じる事が出来ました。

若林 優人